

学習評価を大切にした授業づくり

～自ら学び、思考し、行動する姿を目指して～

千葉県立つくし特別支援学校

電話 047-385-1632

FAX 047-386-5646



研究のポイント

児童生徒が自ら学び、思考し、行動する姿をめざして、授業づくりのPDCAサイクルを大切にした授業実践を行った。3観点にそった目標設定、評価から、授業がどう変わったか、そして授業改善のための学習評価の在り方について考察する。

■学校の概要

<https://cms1.chiba-c.ed.jp/matsudotsukushi-sh/>

知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校で、松戸市、鎌ヶ谷市、柏市の一部を学区とし、全校児童生徒数は231名である。県内でも比較的大規模な学校で、これまで校内の過密状況を緩和することを目的に、新設校への学区分離や高等部新校舎の増築などを実施してきた経緯がある。「児童生徒一人一人が持つ力を引き出し、主体的な学習活動を支え、自立に向けて「生きる力」を育む。」を教育目標とし、「社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントを進め、より適切な教育課程の編成を目指す」ことを経営方針の重点に掲げている。

■研究課題

知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するための個別の指導計画を活用した学習指導と学習評価の在り方について研究する。

■研究の目的と方法

【目的】

- よりよい授業づくりのための学習評価の在り方について明らかにする。
- 研究対象授業の学習内容を整理し、教科間のつながりや年間計画を考える。

【方法】

- 実態把握表を基に、児童生徒の実態を捉え、学習内容チェック表を活用して、的確な学習目標を設定する。
- 評価の3観点にそった授業シート・学習指導案を作成して授業研究会を行い、授業づくり確認シートにそって授業改善を図る。
- 授業改善の過程での児童生徒の変容を記録し、学習評価の在り方や学びの質の向上のための手だてや学習内容について考察する。

■ 研究概要

【実践と成果】 P→D の深まり

＜職員研修＞

- 評価の3観点ワークを行い、目標と評価規準、評価基準の設定について意見交換をした。
- 実態差のあるグループで、共に学ぶことの意義を確認した。

＜授業研究＞

- 3観点到って目標設定をすることで、教科の学習の系統性をしっかり確認し、目標設定、そして学びをどんなことにつなげていくか、どう生かすかということまでを考えて授業が展開されるようになった。
- 知識や技能を教えるばかりでなく、思考・判断・表現する場を大切にしたい授業が多くなり、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの姿を共有できるようになってきた。
- 目標設定、評価から、新たに授業づくりにおいて大切にしたいことが確認でき、授業力が向上した。
 - *実態把握、系統的に学ぶ、文脈を考える、振り返りの工夫、教材の大切さ、発問の工夫 など

【今後の課題】 C→A の検討

- 評価の観点がより明確になるような学習指導案の書式の見直し
- 授業改善につながるための授業参観シートの活用
- 各教科の見方・考え方についての理解を深め、より質の高い学びが実現できるようにする。単元終了後の児童生徒の姿も丁寧に見ていく。
- 年間計画や引き継ぎ資料の見直し

関連資料

- 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
- 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）
- 特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料
- 学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編 高等学校編

【講評】

つくし特別支援学校の実践について

「学習評価を大切にした授業づくり」の研究に取り組んでいただきました。1年目の今年度は、学習評価の在り方について深めながら、子どもたちが自ら学び、思考し、行動する姿を目指した授業改善が図られています。評価の3観点にそった授業シート・学習指導案を作成して授業研究会を行い、授業づくり確認シートにそって授業改善を図っていく手法は、他校でもすぐに参考にできるものと思います。こうした実践は、指導と評価の一体化を図りながら、次の授業、単元につなげていくことができ、系統的に学ぶことの重要性を示せたことは、全ての特別支援学校に還元できるものと考えます。

今後は、観点に対するねらいと児童生徒の実態から、何をどのように学んでいくか、どのように評価するかが準備されているとより評価しやすくなると思います。そのためには、子どもの気付きや思考する場面をより意識した授業展開を期待いたします。